

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 名張市	対談項目 序 人口減少ストップ宣言 ～まち・ひと・しごとの 創生～	<p>日本の人口は、2010年をピークに下がってきている。三重県は、今を100とした場合、2040年には高齢者が120%、人口が81%になる。名張市は、高齢者130%、人口が75%となり、もっと高齢化が進む。これをさせない。</p> <p>人口減少にストップをかけていこうと、まち・ひと・しごと創生本部が国で立ち上げられた。事業実施主体はあくまで基礎自治体であり、活動に対し県にサポートしていただく。国は各省庁とのつなぎ、広域で進める際の他県とのつなぎの本部になっていただきたい。</p> <p>人口の推移は、実は全国が2010年から微減しているのに対し、名張はその10年早く、2000年をピークに微減している。人口は減っているが、世帯数は増えており、核家族化が進んでいる。</p> <p>自然減はそれほどでもない。子ども、子育て頑張っていたいただいているので、平成23年、1年間で生まれた赤ちゃんは635人、平成24年が653人、平成25年が682人と、増えている。これが700人を超えると自然減が止まるということになる。</p> <p>問題は社会減。名張は残念なことに、20歳から24歳の年齢層が進学、就職、結婚を理由に都市部へ出て行かれる。ここへ対策を講じていかなければならない。</p>	<p>人口の社会減の中で、進学と結婚と就職が理由で、人が抜けていく部分が大いなので、そこを一緒にやっていこうというお話だと思う。</p> <p>進学は三重県は厳しい。特に高校から大学へ行く時、三重県で4年制大学へ行く人が、毎年大体8,200人。三重県内の大学へ行く人が1,600人。3,900人が愛知県へ行ってしまう。大学の定員を調べると、3,200人しかない。三重県は、大学収容力が全国で45位。大学の数、定員がすごく低いことが三重県の特徴で、東京や京都に定員割れしている大学がたくさんあるので、地方にも定員、教員を振り分けられるよう国に伝える一方で、魅力のある大学、高専づくりに取り組んでいる。特に、来年度27年度は、学ぶ場をいかによくしていくかをしっかりとやっていきたい。大学側だけでなく、高校の進学の先生方の協力もいただき、地元で貢献する子をしっかりと輩出するという含めた取組を今色々考えているところである。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
2 名張市	対談項目 序 人口減少ストップ宣言 ～まち・ひと・しごとの 創生～	移住に係る情報発信	<p>東京では、できれば地方へ移住したいと思っている方が5割いる。10代、20代は46.7%、50代男性は50.8%。</p> <p>都市部の人移住を検討するうえで、困っていること、不安材料としていることは、働き口があるか、日常生活の利便性、医療の環境、公共交通機関の情報がないということがある。</p> <p>山梨県は、移住希望地ランキングで15位から2位になった。山梨暮らし支援センターを有楽町に設置し、担当者を2名配置し、住宅情報、生活情報、就職情報、市町の案内やPRを行っているためである。三重県も、情報発信基地となっている日本橋の三重テラスに担当者をおいて、移住について情報発信ができないか。</p>	<p>山梨県の取組を、三重県の担当者に調べさせた。山梨県は、移住の相談において、仕事場、病院、周りの環境といった、家と生活環境をセットで紹介、斡旋、コーディネートが窓口でしている。ぜひ、そういう形で考えたいと思う。</p> <p>東京、名古屋、大阪の3大都市圏で、移住相談会を行っている。ぜひ名張市さんも一緒に参加していただきたい。単発で終わらない移住相談の体制を作ることについて、これからよく検討していきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 名張市	対談項目 序 人口減少ストップ宣言 ～まち・ひと・しごとの 創生～	関西事務所を活用した情報発信	名張の場合、東京からもいらっしゃるが、大阪、名古屋の方もいらっしゃると思うので、特に関西事務所でも、しかけは我々がしますのでご協力をお願いしたい。	関西事務所は以前、大阪事務所としていたが、京都も兵庫も入れて関西全体を入れていこうということで、平成25年度から組織変更した。 名張市は非常に積極的に関西事務所を使って情報発信をしていただいているので、その一環として、移住のことも対応できるような体制について少し検討していきたい。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 名張市	対談項目1 名張市における雇用 就業対策について	企業誘致	<p>名張は、工業団地、空き地がないため、土地を有効活用して企業を誘致しようとしている。これまで、ヤマトコールセンター、癒しの里名張の湯、ナフコ、藤森工業、これだけ雇用を生み出した。今後は、滝之原小学校、国津小学校へも来ていただく予定をしている。</p> <p>実は、皇學館大学が抜けたところへ、今近大高専が来ていただいているが、県からの情報により、営業をかけることができ実現した。県は色々な情報をお持ちだと思うので、この部分について県の支援をいただきたいと思っている。</p>	<p>なんといっても働く場が一番深刻です。企業の誘致について情報も来ているので、適する場所等についても、市に提供させていただきながら、一緒に企業に対するPRをこれからもしっかりやっていきたいと思っている。</p> <p>三重県は障がい者実雇用率が全国で最下位にある。名張市は、その障がい者雇用を一生懸命やっていただいております、そういう面でもリードしていただくとありがたい。</p> <p>企業誘致や企業の投資の情報提供等検討し、積極的に取り組んでいきたい。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
5 名張市	対談項目2 結婚、妊娠、出産、育児への切れ目ない支援	<p>一人の女性が生涯かけて産む赤ちゃんの数、合計特殊出生率が、三重県は1.47人、名張市は1.48人と、県平均よりも高い。子ども、子育て、今一生懸命頑張っている成果が表れていると思う。</p> <p>名張市は1.48人であるが、実は、夫婦のみの統計では1.9人。理由は、結婚されない方が増えてきたということ。男性の20%、女性の10%が結婚されない。</p> <p>三重県のアンケート調査では、結婚しない理由で1番多いのは、出会いがない、41.4%である。婚活については民間、会議所では実績がある。名張市も協働でやらせていただくことになっており、11月22日には婚活イベントを実施する。できるだけ名張市内で結婚していただき、名張にお住まいいただくということである。</p> <p>昨年度から、子どもセンターを立ち上げたことにより、市外から17組のご家族が名張へ転入してくれてきた。これは発達障がいをお持ちの子どもを、医療職、福祉職、教育職が切れ目なくきっちりスクラムを組んでサポートしていこうという体制が作られたからである。</p> <p>子ども、子育てについて先駆的な取組ができるのは、ほんとに市民の皆さんの協力があればこそ色々な取組ができています。そして、まちの保健室の職員、保健師の頑張りが結集されて非常に今いい状況となっている。</p>	<p>2010年、名張市の男性は178人、女性は402人が関西圏へ出て行っている。つまり、結婚で名張市の女性が関西圏へたくさん出て行ってしまっているということなので、名張の中で結婚の出会いの場があれば、そのまま住んでいただいていることができるので、そういう出会いの場をつくるということが重要だと思う。</p> <p>合計特殊出生率が下がっている原因は、生涯未婚率、結婚しない人が増えている、晩婚になっていることである。</p> <p>国の少子化対策の交付金は、結婚の部分の予算が対象になっていなかった。昨年の亀井市長との1対1対談で、少子化のことで、地域の実状に合わせて市町が自由に使える交付金を作ってほしいとの要望を受け、今年度三重県独自で作った。市町と民間企業、民間団体と一緒に結婚の出会いの場を作る取組を、間接的に応援する事業を県もさせていただいているので、その予算の確保を来年度以降もできるように努力していきたい。</p> <p>子育て施策では、名張市が全国、県内で先駆けてやっけていただいていることがたくさんある。保育所ではなく、家庭的な環境の中で、一定の研修を受けた者が少人数の乳幼児を看る家庭的保育、保育ママ。男性の育児参加の部分を一所懸命やろうというサタパパなど、非常に先進的な取組をいただいている。中でも注目を浴びているのが「名張版ネウボラ」。名張市では、地域ごとに住民自治協議会があり、公民館を軸とした繋がりがあり、まちの保健室があって、その皆さんの協力の中で、地域のネットワークができていたから実現できたのであって、他の地域で真似するのは難しいが、三重県では、なんとかうまく水平展開していきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 名張市	対談項目2 結婚、妊娠、出産、育児への切れ目ない支援	第3子以降の子ども の保育料無償化	<p>子ども3人目プロジェクト、これは、結婚、妊娠、出産の切れ目のない支援、ニューボラといっていますが、各まちの保健室等を拠点にこれからどんどん展開していきたい。</p> <p>第3子目以降の子どもに関する経済的負担の軽減ということですが、保健師による妊婦の聴き取り調査によると、1人目の子どもを授かった時の喜びは大きいですが、2人目、3人目となると経済的な不安がかなり大きくなる。この経済的負担を軽減する対策を講じることによって、出生率を上げていくことができると思っている。</p> <p>まず名張は、3人目の子どもについて、3歳まで保育料を無料化していこうと今検討していて、来年度から始めたいと思っている。</p>	<p>第3子について、国の多子世帯支援の動向も見ながら、県の役割についてしっかり考えていきたい。</p> <p>出産の時にハードルとなる要因はそれぞれ違う。1人目の時は、仕事と家庭の両立が図れるか、保育サービスの影響が大きい。2人目の時は、パートナーがちゃんと育児に参画してくれるかどうか、それと産後ケア、1人目の産後が安心した環境だったかどうか非常に重要と言われている。3人目は、経済的負担というのが一番大きな要因で、これをいかに軽減できるかということである。</p> <p>三重県民意識調査では、理想の子どもの数と、現実の子どもの数にギャップがある。これをどう埋めていくかが大きな課題。経済的負担を軽減するというのもひとつの対策だと思うので、国の動向を見ながらしっかり検討していきたいと思う。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
7 名張市	対談項目2 結婚、妊娠、出産、育児への切れ目ない支援	子ども医療費の無償化	<p>今年の1月に、市立病院に子どもの救急センターを立ち上げた。例えばロタワクチンなど、予防接種においても子どもの重症化を避けるために、他の自治体より余分なものも実施させていただいている。</p> <p>24時間、365日体制の小児救急医療の場合、当然赤字だが、喜ばれており、続けていかなければならない、より充実していきたいという思いをもっている。</p> <p>知事が公約で、医療については小学校6年生まで無償化していこうと、子育てに対しての支援を申されて、それを叶えていただき、県1/2、基礎自治体1/2で、小学校6年生まで医療費が無償化になった。これを、中学校まで無償化を叶えていただけたら、ほんとに非常にありがたいと思う。予算も伴うことですので、一度検討課題としていただけたらと思う。</p>	<p>小学校6年生まで医療費の無償化について、自分でも思い入れがあってさせていただいた。県が1/2、市町でも1/2、市町の財政負担にもなるなか、ご理解を得て、平成24年9月からスタートすることができた。</p> <p>子育て世代からすると、子どもの病気が急に起こることへの不安が大きいため、非常にニーズが高いということは十分承知をしているが、一方で、県だけでは決められない話である。年齢を上げてほしいというお話もあれば、窓口負担を無料にしてほしいというニーズもある。福祉医療費助成の関係では、精神2級の部分を増やしてほしいという話もあったり、色んな観点がありますけれども、よく検討をさせていただければと思っているところである。</p>